研 究 結 果 報 告 書

本研究の研究対象は、日本語とウイグル語のアスペクトでありますが、日本語に関しては、膨大な先行研究存在している。一方、ウイグル語のアスペクトの研究は日本語と比べると、数も少なく、研究範囲も広くない。また、ウイグル語のアスペクトについてウイグル語の学術界では論争があります。これはウイグル語のアスペクトを表す形と種類の複雑さがあり、アスペクトを表す標識の機能が様々であるので、これまでの研究では、ウイグル語のアスペクトを分ける基準に関して、まだ一致した結論が出ていない。これは本研究で明らかになる重要な一つの目的であり、研究の第一歩でもある。今までの研究では主にウイグル語のアスペクトの意味、機能に関して研究したが、かなりの部分段々明らかになってきた。

今回の研究によると、ウイグル語のアスペクトを表す形式は次のような４種類に分けられる：

1.動詞に過去を示す接尾辞＋ɣ an(Kan/gän/kän)をつけて、完了したことを表す。
2.動詞に継続を表す wat を付けて、進行形を表す。
3.動詞の後に補助動詞(形式動詞)を付けて、さまざまな意味を表す。
（１）持続形：動詞に oltur/yür/Vwär を付けて、動作の持続する状態を表す。
（２）重複形：動詞に tur/bär/mang を付けて、動作を繰り返して行うことを表す。
（３）試みる形：動詞に baK / kör.をつけて、動作を試みたことを表す。
（４）反身形：動詞に al を付けて、動作の結果が主体に向かうことを表す。
（５）瞬時形：動詞に sal/wät を付けて、動作を瞬間的に、無意識で行ったことを表す。
（６）完成形：動詞に bol をつけて、動作の完成したことを表す。
（７）進行形：動詞に öt を付けて、動作が行われることを表す。
４.動詞＋動詞：同じ動詞を重複させることによって、継続を表す。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表　（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）
論文　（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等） 夏迪娅・伊布拉音，“试论日语和维吾尔语语序”， 《语文学刊》第435 期，2013.1，第1-4,50 页 （シャデイヤ　イブライン、「日本語とウイグル語の語順について」、 『语文学刊』第435 期、2013.1、pp1-4、50）
書籍　（題名・著者名・出版社・発行時期等）